

DATA FILE



名前	EPIDOTE (エピドート) / 緑簾石
化学組成	$\text{Ca}_2\text{Fe}^{3+}\text{Al}_2(\text{Si}_2\text{O}_7)(\text{SiO}_4)\text{O}(\text{OH})$
色	緑色、黄色がかった緑色、黒色
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	灰色
劈開	完全
断面	凹凸状
硬度	6 ~ 7
比重	3.3 ~ 3.5

りよく れん せき

緑簾石

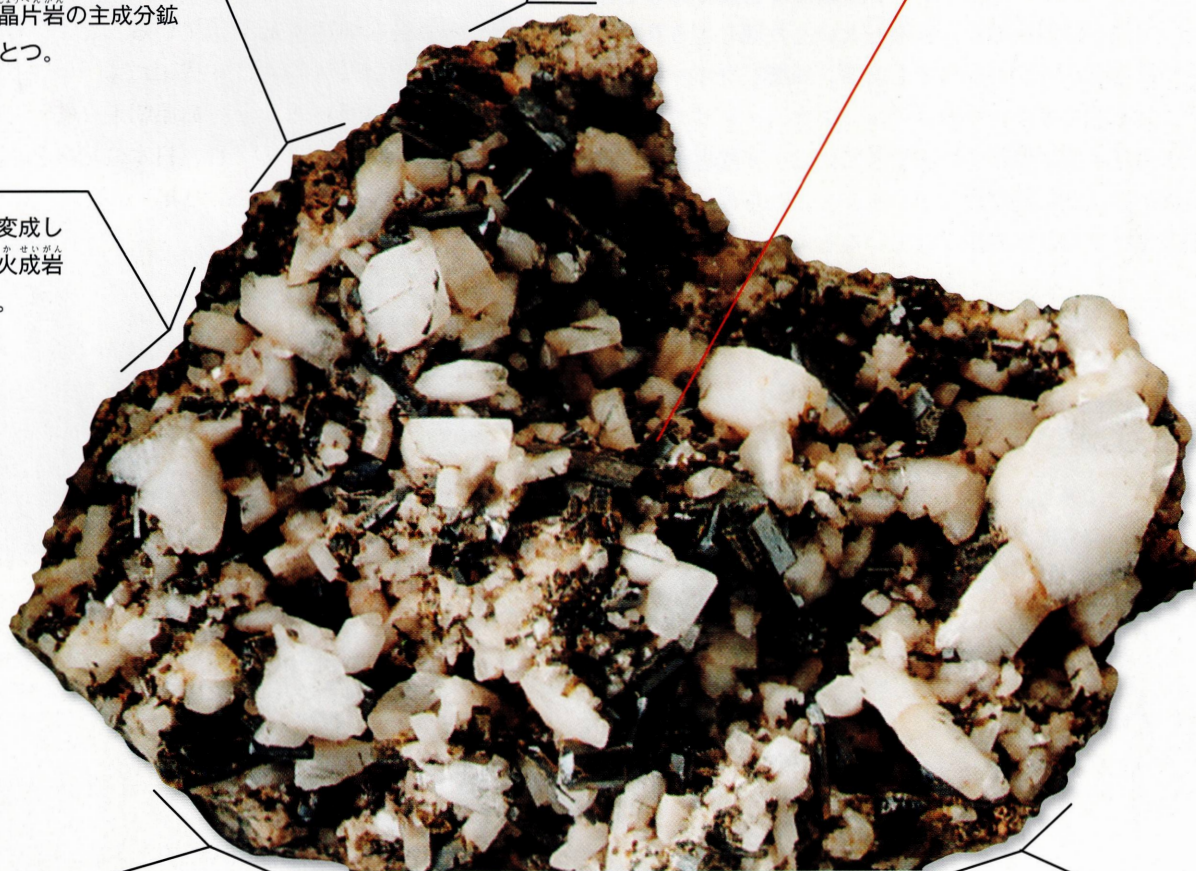
EPIDOTE

含まれている鉄の量によって色の濃淡が変わり、量が多いほど不透明な濃いものになる。一方、透明なものは、暗緑色～褐色になり、多色性をしめす。

曹長石と共生している緑簾石。

「緑色片岩」と呼ばれている結晶片岩の主成分鉱物のひとつ。

熱や圧力で変成した変成岩や火成岩中にできる。



緑簾石はその名のとおり、葦や細く割った竹を平行につなげた簾に似た細い針状や短柱状をしていることが多いが、小さな粒子が集まった塊状であらわれることもある。

劈開は完全で、素焼きの陶板にこすりつけると灰色の条痕が残る。





◀母岩上にできた緑簾石の柱状結晶。

▼イタリアのピーモントで産出した緑簾石。

リ 緑簾石

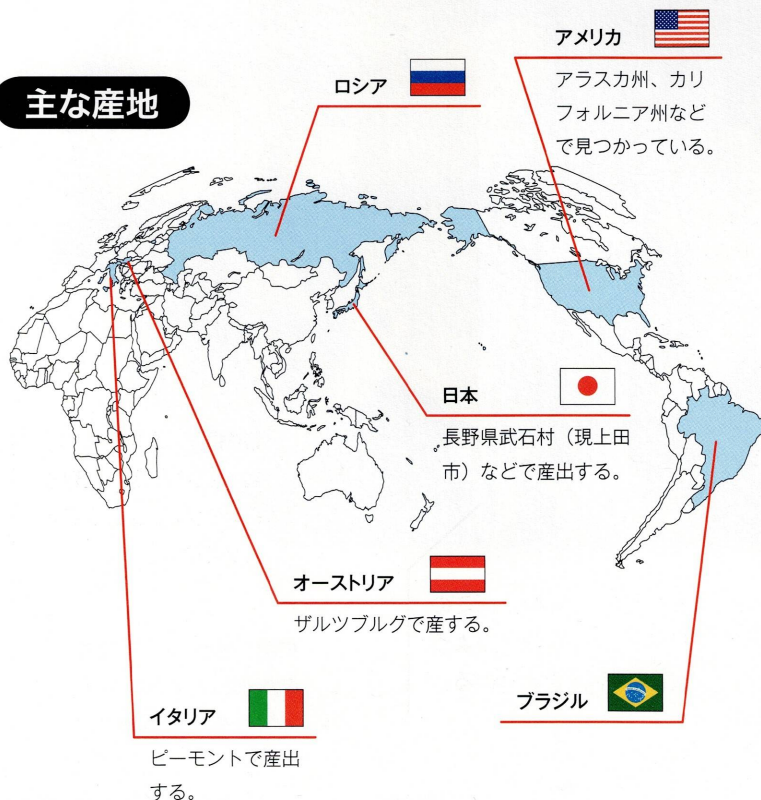
鉱物グループの総称

「緑簾石」というのは、ひとつの鉱物の名前であると同時に、褐簾石や斜灰簾石、紅簾石といった同じような性質を持つ鉱物グループの総称でもある。緑簾石グループの鉱物は、基本的にカルシウム、アルミニウム、シリコン、酸素が水酸基1個と結びついてできているケイ酸塩鉱物。緑簾石はそのほかに鉄を含んでいるが、これらの成分が希土類元素やマンガンと置換されているものもある。



▲密集してからみあった長い緑簾石の柱状結晶。劈開の線が表面にあらわれている。

主な産地



緑簾石のつまった「やきもち石」

長野県上田市（旧武石村）には、「やきもち石」と呼ばれる有名な石が存在する。これは、変質した安山岩中から、にぎりこぼしほどの大きさに採れる褐色の岩石で、内部に黄緑色の緑簾石がつまっている。その様子が、うぐいすあんの入った餅に似ていることから「やきもち石」という名前がつけられた。